

Z会東大進学教室

直前一橋大英語総合演習

【1回目】



問題

【1】

解答

- (1) 「全訳」の下線部㉑参照。
- (2) 「全訳」の下線部㉒参照。 (3) cleanliness
- (4) 健康上必要とされる清潔さを保つ本能的欲求を備えていないため、清潔さを保つ術を強制的に教え込まれる必要があること。
- (5) Habits which children cannot acquire for themselves must of necessity be taught through a good deal of coercion.
- (6) A. 大人を喜ばせようと、自然な好奇心からではなく間違いのないように物を考える。
(37字)
- B. 子供の自発的な活動と探究心を抑え体を動かす有用な習慣を身に付けるのを妨げること。(40字)
- C. 涼を取るために必然的に水浴びをしたし、食べ物は料理せずに生で食べていたから。(38字)

解説

- (1) 本問でのポイントは *spontaneously in the way in which …* の訳し方。the way (in which) …は「…の仕方」の意であり、「…する仕方のように自発的には」が直訳。言い換えると (they do not think) as spontaneously as … となる。つまり「子供たちは走ったり、跳んだり、叫んだりしている時は周りから強制されなくても自発的に行動しているが、考える時には自発的ではない」ということを言おうとしているわけである。「走ったり、跳んだり、叫んだりしている時のように、自発的に考えない」とすると走ったり跳んだりすることも自発的な行動でないようにもとれるので避ける。誤解を避けるためには「…する時のようには」または「…する時と違って」と訳すとよい。
- (2) 最初のポイントは the children doing ~ の部分。この doing は動名詞で、直前の the children がその意味上の主語である。したがって、この部分は「子供が非常に多くのことをすること」という意味になる。動名詞の意味上の主語は所有格か目的格で表されるが、本問のように動名詞が前置詞の目的語の場合や他動詞の目的語の場合は、目的格が用いられることが多い。
- もう1つのポイントは they had better be doing の部分である。had better …で「…するのがよい；…すべきである」の意。ここで be doing と進行形になっていることで、a great many of the things をするという‘行為’が重要である、というよりも、子供がそのような行為をしているのが自然な状態である、という‘状態’に重きを置いた形になっている。つまり「子供時代に子供があるべき姿」という意味合いが込められている。訳出の際にこのニュアンスを含めるのはなかなか難しいが、あえて説明的に訳すと「子供たちが(子供時代に)しているのが自然なはずの(非常に多くのこと)」ということになる。

○ abominable *adj.* 「忌まわしい；言語道断の」

○ tyranny *n.* 「暴虐〔非道〕な行為」

○ interfere with ～ 「～を妨げる」

- (3) 下線部の前に繰り返し見られる place の意味を理解すると、下線部の内容が明らかになる。この place は「本来あるべき場所；持ち場」の意であり、cleanliness ～ has its place in the morning and evening とは、「cleanliness は朝と夜に持ち場がある」つまり「cleanliness は朝と夜に必要なである」ということ。したがって、その後の even this limited place は、「この朝と夜という限られた持ち場さえ」という意味になり、文の主語である下線部 it は cleanliness を指すことがわかる。cleanliness は本文後半のキーワードであり、ここでは身体を清潔に保つために入浴したり、シャワーを浴びたりすることを指す。
- (4) 下線部より後は歯磨きの習慣について、下線部より前は身体を洗う習慣について述べられている。いずれも原始人のような生活であれば必要ないが、現代の生活では必要な習慣であると結ばれているので、The same thing の指し示す内容は直前の but we … 以下であることがわかる。ポイントは、(we) have not as much instinct towards cleanliness as health requires および have to be taught の部分。つまり、健康のためには必要だが本能的に行われないう行為は、教え込まなければならないということである。
- (5) 英訳の際には本文中の語句を参考にできる。
- 「自分で身に付けることのできない習慣」は *ℓ. 62* の habits which they will not acquire for themselves を応用する。
 - 「かなり強制的に」は *ℓ. 52* の through a good deal of coercion が利用できる。
 - 「…する他ない」は「**解答**」では「必然的に…されなければならない」と解釈して must of necessity be taught ～ の表現を用いたが、能動態で表す場合は we have no choice but to … などの表現も使える。
- (6) A. 第2段落の *ℓ. 17* children who are forced to learn acquire a loathing for knowledge で、学ぶことを強いられた子供は知識に対して嫌悪感を抱くようになることが述べられているが、これは「感情」であって「物の考え方」ではない。すでに見たように、下線部④で、学ぶことを強いられた子供たちは「走ったり跳んだり叫んだりする場合ほど自発的に考えない」ことが述べられている。そういった子供たちの具体的な物の考え方は、下線部④直後のコロンの they think with ～ from natural curiosity. に述べられているので、ここをまとめればよい。
- B. *ℓ. 45 ~ 49* において筆者は、子供たちが健康上1日に2回体を洗うことは大切だが、その間の時間は体を汚しながらあちこちを探索して過ごすべきであると述べている。親が子供を清潔にしようとするあまり、そのような子供の活動を禁じることの問題を述べているのが、その次の文の To deprive children of ～ である。問題点は to lessen ～ 以下に列挙されているのでこれをまとめる。
- C. 直立猿人について述べられているのは *ℓ. 54* No doubt … 以降。まず体を洗うことについて述べられているのだが、*ℓ. 55* の in this way は前文の内容を受けて

いる。つまり、服を着ないで暑い気候の下で暮らしていたので、わざわざ教え込まなくても涼を取るために必然的に水浴びをするようになり、結果として体はきれいになったということ。逆に、服を着て穏やかな気候の下に暮らしている現代人はその必然性が低いので、教え込む必要があるわけである。歯磨きについては、l. 57の If we ate ~ to brush our teeth に理由が述べられている。つまり、直立猿人は現代人と違って調理をせずに生で物を食べていたため、歯を磨く必要性がなかった。そのため、歯磨きを教わる必要もなかったのである。

全訳

教育における自由はできる限り尊重すべきだという主張は非常に強い。まず第1に、自由がないと大人との衝突が起こり、ごく最近まで考えられていたよりもはるかに深刻な心理的影響を及ぼすことが多いのだ。何らかの形で強制されている子供は憎しみをもって反応しがちであり、通例、憎悪を自由に発散することができない場合には、そうした感情は心の内にわだかまる。そして無意識の中に沈んで、その後生涯を通じて、あらゆる奇行につながり得る。憎悪の対象は父親から国家や教会、外国にとって代わり、このことが場合によっては人を無政府主義者や無神論者、軍国主義者にするかもしれない。さらにはまた、子供を抑圧する権威に対する憎しみは、その後、次の世代を同じように押さえつけたいという欲望に変わるかもしれない。あるいはただ漠然とした不機嫌さが残り、社会的、個人的に好ましい関係が作れなくなるかもしれない。ある日私は学校で、並の体格の男の子が彼よりも小柄な男の子をいじめているのを見つけた。私は注意したが、彼はこう答えた。「大きいやつらが僕をぶつから、僕は小さい子をぶつんだ。間違っていない。」この言葉で彼は人類の歴史を要約していたのだ。

教育における強制のもう1つの影響は、独創性と知的な興味が損なわれることである。知識欲、あるいは少なくとも、多くのことを知りたいという欲求は、子供が当然持っているものであるが、望む以上、あるいは吸収できる以上のものを与えられることによって、子供の知識欲はたいへい損なわれてしまう。食べることを強いられた子供が食べ物に対して嫌悪感を持つようになるのと同じように、学ぶことを強いられた子供は知識に対して嫌悪感を抱くようになる。①頭を働かせる時、そのような子供たちは、走ったり、跳んだり、叫んだりする時のようには、のびのびと自発的に考えることはしない。つまり、彼らは大人を喜ばせるために頭を使い、そのため自然な好奇心からというよりも、間違えることのないように考える。自発性を殺すことは特に芸術的な面で大きな害を与える。文学にせよ絵画、音楽にせよ、度を越えて、あるいは自己表現のためというよりは正確に表現するという目的で教え込まれた子供は、次第に人生の美的な側面に対する興味を失っていく。男の子の機械に対する興味でさえ、教え過ぎることによって損なわれてしまいかねない。もし授業中によくある一般的なポンプに関する原理を男の子に教えたとしたら、その子はあなたが教えようとしている知識を何とか学ばずに済まそうとするだろう。ところが、裏庭のポンプに触れることを禁じたとしたら、子供はできる限りの暇を見つけてポンプの仕組みを学ぼうとするだろう。こうした問題の多くは、授業を自発的なものにするによって避けることができる。そうすることによって教師と生徒の間の摩擦はなくなり、多くの場合、生徒は教師から教わる知識を学ぶ価値があるものと考えられるようになる。この場合、彼らの自主性は損なわれない。なぜなら

学ぶのは自分たち自身の選択によるからである。また、これからの生涯で、無意識の内にくすぶり続ける、解決されない多くの憎悪を蓄積していくこともない。言論の自由、礼儀からの解放、性の知識に関する自由に対する主張はさらに強いものではあるが、これらに関してはのちに別途考えようと思う。

以上のような理由から、私もそれで正しいと思うが、教育改革者は学校における自由をさらに拡大しようとしている。しかしながら私は学校における自由を絶対的な原則に格上げすることができるとは思わない。やはり自由にも限度があり、その限界がどのようなものかを理解することが重要である。

一番明確な例の1つとして、清潔さを挙げてみよう。まず初めに指摘したいのは、裕福な親を持つ子供の多くが必要以上に清潔にさせられているということである。親たちは清潔だと衛生的であるとの理由で自分たちの行動を説明するが、必要以上に清潔にする動機となるものは一種の上流階級気取りである。子供が2人いて、一方が清潔で、他方が汚らしいならば、清潔な子供の親の方が不潔な子供の親よりも収入が多いと考えがちである。そのため上流階級気取りの人々は自分の子供たちを極めて清潔にしておこうとする。⑥これは、子供たちがしている方がよい非常に多くのことをするのを邪魔するひどく横暴な行為である。健康という観点から言えば子供は日に2度、朝起きた時と、夜寝る時に体を洗えばよい。その2度の苦行の間は、子供たちは、服を台無しにしたり、泥まみれの手で顔をぬぐったりしながら、一生懸命世の中を、特に汚い場所を探索すべきである。子供たちからこうした楽しみを奪うことは自発性と探究心を抑え、体を動かす有用な習慣の育成を妨げる。ただ、確かに泥まみれになることはとても素晴らしいことなのだが、前述のように朝と晩に体を洗うことも必要であり、さらにこの限られた行為でさえ、強制されて相当教え込まれることなくしては、子供の生活に根づかせることは難しい。もし我々が服を着ずに暑い気候の下で暮らしていたら、必要な清潔さも涼を取るための水浴びで得られるであろう。直立猿人がこうしたやり方で清潔さを保ったのは間違いない。しかし服を着ており温暖な気候の下で暮らしている私たちは、健康上必要なだけの清潔さを保つに足るだけの本能的欲求は持っていない。そのため私たちは体を洗うことを教えられる必要がある。同じことが歯磨きにも当てはまる。もし私たちがはるかな祖先と同じように食物を生で食べるなら、歯を磨く必要はないだろう。しかし料理という不自然な習慣を維持する限り、私たちはもう1つの不自然な習慣、つまり歯磨きによってバランスをとる必要がある。「自然に帰れ」という主張は、もし健康と両立させるのであれば、徹底的でなければならないし、衣服の着用と料理はやめなければならない。もしそこまでやる気がないのならば、私たちは子供たちに自分1人では身に付かないような習慣を教える必要がある。そのため、清潔さと衛生に関する問題については、従来の教育は非常に強く自由を制限してきたのであるが、それでもなお健康のためにはある程度の制限が必要である。

注

ℓ. 1 ◇ case *n.* 「主張」

ℓ. 4 ◇ hatred *n.* 「憎悪；嫌悪」

◇ give vent to ~ 「～をぶちまける [発散させる]」

ℓ. 5 ◇ fester *vi.* 「胸にわだかまる；つのる」

- ◇ the unconscious 「潜在意識；無意識」
- ℓ. 8 ◇ anarchist *n.* 「無政府主義者」
- ◇ atheist *n.* 「無神論者」
- ◇ as the case may be 「場合によって；ケースバイケースで」
- ℓ. 10 ◇ moroseness *n.* 「不機嫌さ」
- ℓ. 12 ◇ ill-treat ～ *vt.* 「～をいじめる」
- ◇ expostulate *vi.* 「諫める；諭す」
- ℓ. 13 ◇ epitomize ～ *vt.* 「～を要約する〔縮図的に表す〕」
- ℓ. 17 ◇ assimilate ～ *vt.* 「～を吸収する」
- ℓ. 22 ◇ to excess 「過度に」
- ℓ. 23 ◇ progressively *adv.* 「次第に」
- ℓ. 26 ◇ impart ～ *vt.* 「～を詰め込む」
- ℓ. 40 ◇ on the ground that … 「…という理由で」
- ◇ hygienic *adj.* 「衛生的な」
- ℓ. 41 ◇ snobbery *n.* 「上流崇拜〔気取り〕」 < ℓ. 43 snob *n.* 「上流気取りの人」
- ℓ. 47 ◇ grub about 「(土を掘って) 探し回る」ここでは explore と併用することで「活発に〔一生懸命〕探検する」といった意味合い。
- ℓ. 48 ◇ grimy *adj.* 「ほこりで汚れた；汚い」
- ℓ. 60 ◇ cult *n.* 「流行；～熱」
- ◇ compatible *adj.* 「矛盾しない；共存できる」

【配点】 40点

- (1) 5点 (2) 5点 (3) 3点
 (4) 6点 (5) 6点 (6) A. 5点 B. 5点 C. 5点

【配点の目安】

- (1) When they think, they do not think spontaneously in the way in which they run or jump or shout (5点)
 spontaneously in the way in which … の誤訳 - 2点
 not の射程が曖昧な訳「～する時のように…しない」としたもの - 1点
- (2) 以下のように2つの区分を設定する。単語レベルのミス・脱落は1件につき1点減点とし、区分を超えて減点はしない。
- ① This is an abominable tyranny which interferes with the children doing a great many of the things (3点)
 the children doing ～ の the children を doing の意味上の主語として訳していないもの - 2点
- ② they had better be doing (2点)
- (4) ① (快適な環境にいる) 我々は健康上必要な清潔さを保つ本能的欲求を備えていない (3点)
- ②よって、清潔に保つ術を教え込まなければならない (3点)
 (we) have not ～ wash の内容を正確につかめていないものは、①、②の観点より減

点する。

- (5) 以下のように2つの区分を設定する。単語レベルのミス・脱落は1件につき1点減点とし、区分を超えて減点はしない。
- ①子供たちが自分で身に付けることのできない習慣は (3点)
「自分で」などの要素の脱落 - 1点
 - ②かなり強制的に教え込む他ない (3点)
「かなり強制的に」や「他ない」などの要素の脱落 - 1点
- (6) A. ①大人を喜ばせるために (1点)
②自然な好奇心からではなく (2点)
③間違いのないように物を考える (2点)
①～③の観点から減点する。
- B. ①子供の自発的な活動と探求心を抑え (2点)
②体を動かす有用な習慣を身に付けるのを妨げること (3点)
To deprive children of these pleasures ~ habits. をもとに、①, ②の観点から減点。
- C. ①涼を取るために必然的に水浴びをした (2点)
②食べ物は料理せずに生で食べていた (2点)
③「～から」など理由を説明するのにふさわしい表現 (1点)
「体を洗う」ことと「歯を磨く」ことの2点に関する理由について言及されていないものは①, ②の観点から減点。

[2]

解答

- (1) 「全訳」の下線部①参照。 (2) 「全訳」の下線部②参照。
- (3) a
- (4) I'm not sure whether it is the fear of death or lack of self-confidence that causes this vague anxiety.
- (5) 現代人は未開人と違って危険が直接自分に降りかかりそうだという恐怖心は持たないが、漠然とした不安を抱いている。その不安は一種の不安定な精神状態として存在し、その原因もはっきりしないが、現代人が社会を機能させるために適切な量の不安を必要としていることは明らかである。(131字)

解説

- (1) ○ characterize ~ *vt.* 「～を特徴付ける」
○ phrase *n.* 「言い方；言い回し」
○ presumably *adv.* 「どうも…らしい；たぶん」 = probably
○ in contrast to ~ 「～と対照をなしている [対照的である]」
- (2) as for ~ 「～について言えば」通例文頭に用いられ、前述の人・物・事柄に関連して、新しい情報を導く。
Ex. Jane's in Paris at the moment. *As for* Kate, I've no idea where she is.

(ジェーンは今パリにいる。ケイトについては、どこにいるかわからない。)

○ peasant population 「小作農の人々」

○ not so much A as B 「AというよりむしろB」

- (3) 'push + 人 + into ...ing', 'prod + 人 + into ...ing' はともに「人を駆り立てて…させる」の意。したがって、下線部は「私たちが駆り立てて医者に診てもらおうようにさせる」となる。したがって、選択肢中では a「私たち自身に医者に診てもらおうように迫る〔強く勧める〕」が最も近い。他の選択肢の意味は次の通り。b「医者への予約をする」c「医者への助言を求める」d「医者を呼びにやる」e「医者の言うことを喜んでする」。

- (4) 本問の骨格となるのは「～がAかBか私はよくわからない」であるが、これは第8段落最終文 He isn't sure whether it is the current year or the Administration or a change in climate or the atom bomb that is to blame for this undefined sense of unease. が利用できる。ここで whether が導く節内は it is ~ that … の強調構文になっていて、the current year or ~ the atom bomb が強調されていることに注意しよう。この構文をそのまま利用して I'm not sure whether it is A or B that … という形にまとめればよい。

○ 「漠然とした不安」 the vague anxiety

○ 「～を引き起こす」は「～の原因となる」と考えて cause ~, 「～をもたらす」と考えて bring about ~ などを用いることができる。

○ 「死に対する恐怖心」 the fear of death

○ 「自信」本文に self-confidence があるが、confidence だけでもよい。

○ 「～の欠如」 lack of ~

- (5) 第6段落以下最後まで4つの段落に、現代人が抱える不安に関する筆者の見解が述べられているので、この中からポイントとなる部分をまとめればよい。各段落の内容をもう少し詳しく見てみよう。

⑥ 「不安は恐怖と対比させることができる。不安とは直接個人に降りかかる災難に対する恐怖が消える時に生じる妥当な感情である。」

⑦ 「現代の世界には心配なことがあまりないということではなく、例えば都市での爆発事件が個人の計画を台無しにすることもあるが、危険が直接自分の身に降りかかりそうだという恐怖感はない。あるのは漠然とした不安である。」

⑧ 「不安を生み出す世界は、実は（未開人の世界に比べると）比較的安全な世界で、他人が突然死に直面することがあっても自分が死に直面するとは思わない。不安は一種の不安定な精神状態として存在し、不安になるのは自分にその原因があるのか他人が悪いからかよくわからない。」

⑨ 「現在我々が住む社会はそれを機能させるために適切な量の不安を必要とするようになっているのは明らかである。不安があり過ぎることは精神の健康によくないが、ある適度の不安があることによって人は行動に駆り立てられる。」

上記のようにまとめた内容の中で下線を引いて示した部分に特に注意する必要がある。

今日我々が生きている世界を批評家が否定したいと思う時、彼らが取っておなじみの方法の1つは、不安こそが現代人の抱える大きな問題であるという理由で現代人を手厳しく批判することである。現代は、W. H. オーデンの言葉を借りるなら、不安の時代だと彼らは言う。現代は我々の誇る進歩、偉大な科学技術の発展、巨万の富を伴って到達した成果であり、人は皆とてつもなく大きな不安を背負っていて、やがて最後には、胃や動脈や皮膚などに、我々の生活について回る緊張が現れる。我々が好んで口にする別れの時の言葉が、昔の「グッバイ（神があなたとともにおられますように）」に代わって、今では「それじゃまた、無理しないでね」になっているが、それは現代生活の不安と緊張で倒れないようにどのアメリカ人も相手に向かって忠告するからだ、とヨーロッパで生活していたアメリカ人が祖国に戻って来て批評する。

①ある時代が1つの言い回しによって特徴付けられる時はいつも、おそらくその時代は他の時代と対照をなしていることであろう。もし現代が不安の時代であるとしたら、他の時代はどんな時代であったのだろうか。ここで批評家やあら探しをする者たちは非常に面白いことをする。まず、彼らは不安の対極にあるものの一覧を提示する。それは、安全、信頼、自信、自らによる方向決定などである。次に、彼らはそれ以上あまり議論せず、他の時代、つまり歴史上の他の時期は、どういうわけか信頼の時代、あるいは確信を持ってある方向に進もうとする時代であったと我々に思わせる。

南洋の島で、のんびり座ってパンノキの実が膝に落ちてくるままにしている未開人、自分が鋤で耕す畑や面倒をみる家畜と一体となって暮らす小作農、忙しく道具を使い、生まれながらの職人としての技量を発揮しようと夢中になっている職人——このような人間像は、現代人が苦しんでいる精神的緊張を描くことによって想起されるものとは逆のイメージである。しかし、そのような過去の時代の人が戻って来て彼らが実際どんな至福の世界に生きていたかを証言したことはない。

確かなことだが、もし我々が現代世界の未開人や小作農を観察して質問するとしたら、まったく違った世界が見えてくる。ニューギニアの奥地に住む原始の未開人には不安はない。あるのは深刻で絶え間のない「恐怖」で、それは、悪霊などによる魔術や、泉の水を飲もうと身をかがめていたり椰子の実を取ろうと椰子の木に登っている時に、いつ自分や自分の妻や子供を殺すかもしれない、槍を持った敵に対する恐怖心である。未開人は日夜用心し、緊張し、恐怖心を抱きながら行動する。

②世界の大部分の地域における小作農の人々について言えば、彼らは不安を抱いているというよりむしろ空腹なのである。彼らは賃上げが得られるか、3つ選んだ大学のどれに入学を許されるか、フォード車を買うかそれともキャデラックか、買いたいテレビが高過ぎないかどうか、などということに腐心するようなことはない。彼らは空腹で、寒くて、世界の多くの地域で、彼らは地元で起こる戦争や強盗や政治的クーデターによって自分の家や貧しい暮らしや生命が危険にさらされることを恐れている。しかし、彼らには確かに不安はない。

なぜなら、我々は特別な精神状態を言い表すために不安を使うようになったので、それを空腹、喪失、暴力、そして死というような現実の恐怖と対比することができるからである。不安というものは、直接的に個人に降りかかる恐怖、例えば、火山、弓矢、魔術師の魔術、

背中を突き刺されることや、その他、すべて直接自分に向けられた災難に対する恐怖が消えた時に起こる妥当な感情である。

こう言ったからといって、今日の世界には不安になることがたくさんありはしない、ということではない。それまで聞いたこともないある都市の街路で爆弾が破裂したために兵力が発動され、その結果、地球の反対側で誰かが慎重に計画していた法学部での教育が台無しになってしまうという結果になるかもしれない。しかし、それでも未開人が経験するような、個人的で差し迫った、災害が今にも起こりそうだという実感はない。むしろ、漠然とした不安、未来は手のつけようがないという感じが生ずるのだ。

不安を生み出すような世界は、実際には比較的安全な世界、誰も自分が突然の死に直面しているなどとは思わない世界である。ひょっとしたら突然の死が、ある一群の身元の知れない他人に襲いかかるかもしれないが、自分の身に降りかかるとは思えない。不安は一種の不安定な精神状態として存在するもので、そのような精神状態にあると人は何か得体の知れない特定できないものが悪くなっていくとを感じるようになる。もし世の中がうまくいっているように思えると、これが不安を生み出すことになる。なぜなら、よい時代が終わるかもしれないからだ。もし世界が悪い方向に進んでいるとしたら、ますます悪くなるかもしれない。不安というものはその所在の中心がないように思える。不安を抱いている人はそのことで自分を責めるべきか他人を責めるべきかがわからない。この実態のつかめない不安感のことで責められるべきは、今年という年なのか、政府なのか、天候の変化なのか、それとも原子爆弾なのか、よくわからないのだ。

明らかなのは、我々は社会を機能させるために「適切な」量の不安を持つことに依存する社会を発展させてきたということである。精神科医たちが「あの患者には元気になるのに必要なだけの不安がなかった」と言っているという話を聞いたことがある。この言葉が示しているのは、我々が、あまりにも不安があり過ぎると心の健康に害を及ぼすということに同意する一方で、自分を駆り立て、癌の兆候かもしれない症状について医者に診てもらおうとか、有効でなくなっているかもしれない条項を含んでいる古い生命保険証券を調べてみるとか、ビリーの成績表が申し分ないように思えるのに担任の先生と話してみるとか、そういうことをしようという気持ちを起こすために不安に依存するようになった、ということである。

注

- ℓ. 4 ◇ go about 「歩き回る；動き回る」
- ℓ. 5 ◇ artery *n.* 「動脈」
- ℓ. 8 ◇ admonish ~ to ... 「～に…するように勧告する」
◇ break down 「(健康を害して) 倒れる；ノイローゼになる」
- ℓ. 13 ◇ self-direction 「自ら (進むべき) 方向を決定すること」
- ℓ. 15 ◇ breadfruit *n.* 「パンノキの実」
- ℓ. 16 ◇ at one with ~ 「～と一体になって」
◇ tend ~ *vt.* 「～ (= 家畜・店など) の番をする」
- ℓ. 18 ◇ counterimage = counter image 「逆のイメージ」
◇ conjure up ~ 「～を思い起こす」
- ℓ. 22 ◇ spear *n.* 「やり」

- ℓ. 23 ◇ stoop *vi.* 「身をかがめる」
- ℓ. 24 ◇ warily *adv.* 「用心して；油断なく」
◇ taut *adj.* 「緊張した」
- ℓ. 29 ◇ dread ～ *vt.* 「～を恐れる」
◇ bandit *n.* 「強盗」
◇ coup *n.* 「クーデター」
- ℓ. 30 ◇ meager *adj.* 「貧弱な；不十分な」
- ℓ. 33 ◇ sorcerer *n.* 「(悪霊の助けを借りる) 魔法使い；妖術師」
◇ spell *n.* 「魔法；魔力」
- ℓ. 34 ◇ stab *n.* 「刺すこと」
◇ calamity *n.* 「(地震, 洪水などの) 大災害；災難」
- ℓ. 39 ◇ impending *adj.* 「(危険などが) 今にも起こりそうな」
- ℓ. 44 ◇ unspecified *adj.* 「明記されていない；特定できない」
- ℓ. 51 ◇ psychiatrist *n.* 「精神科医」 *cf.* psychologist (心理学者)
- ℓ. 52 ◇ inimical *adj.* 「不利な；有害な」
- ℓ. 54 ◇ life-insurance policy 「生命保険証券」
- ℓ. 56 ◇ report card 「成績表」

【配点】 60点

- (1) 12点 (2) 12点 (3) 4点
(4) 12点 (5) 20点

【配点の目安】

- (1) 以下のように2つの区分を設定する。単語レベルのミス・脱落は1件につき1点減点とし、区分を超えて減点はしない。
- ① Whenever an age is characterized by a phrase, (6点)
whenever ～ を接続詞として訳出していない - 3点
- ② it is presumably in contrast to other ages (6点)
- (2) 以下のように2つの区分を設定する。単語レベルのミス・脱落は1件につき1点減点とし、区分を超えて減点はしない。
- ① As for the peasant populations of a great part of the world, (5点)
- ② they aren't so much anxious as hungry (7点)
not so much A as B の構造を正しく訳出できていないもの - 4点
- (4) 以下のように4つの区分を設定する。単語レベルのミス・脱落は1件につき1点減点とし、区分を超えて減点はしない。
- ①この漠然とした不安を引き起こすものはAか、それともBか (5点)
- ②死に対する恐怖心 (3点)
- ③自信の欠如 (2点)
- ④私はよくわからない (2点)

- (5) ①現代人は未開人と違って危険が直接降りかかりそうだという恐怖心は持たない
(5点)
- ②しかし、漠然とした不安を抱いている (5点)
- ③その不安は一種の不安定な精神状態として存在し、その原因もはっきりしない
(5点)
- ④しかし、現代人が社会を機能させるために適切な量の不安を必要としていることは明らかである (5点)
- 第6～9段落から以上4点をまとめる。現代人の抱く「不安」と未開人が抱く「恐怖」の質の違いとその役割について、①～④の観点から減点する。

EFB
直前一橋大英語総合演習
【1回目】



会員番号	
------	--

氏名	
----	--